

さとうきび栽培計画

春植	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
作業内容	発芽・分けつけ期・生育初期						生育旺盛期				伸長後期			登熟期		成熟期		
作業のポイント	土づくり	植付	平均培土	高培土	かん水													
堆肥を利用し、土づくりに励む 植付時に薬剤を土壤混和することで、ハリガネムシ類やマイチュウ類の被害を減らす（プリンスペイト等） 植付後1週間以内に土壤処理除草剤を土壤散布する									農薬を使う際は、収穫前日数に注意して、適期防除を心がけよう！ かん水を行うと、さとうきびは1日3cm程度成長します。				株出するときには、収穫後1週間以内に施肥・管理する					

株出	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
作業内容	発芽・分けつけ期・生育初期						生育旺盛期				伸長後期			登熟期		成熟期				
作業のポイント	収穫・株出管理・施肥	平均培土				高培土	かん水													
株出をするときには、収穫後1週間以内に施肥・管理する ^{植付けが重要} 複合管理機を使えば、株揃え、根切り、株割、施肥、殺虫剤、除草剤散布が同時にできる。 ハーフソイラ等で畝間の土壌破碎を行うことが、高単収への近道									株出栽培は雑草との戦い 雑草はいきいきうちに防除することが、高単収への近道高培土までの間は徹底的な雑草防除。除を心がけよう。雑草があると光・養水分競合を行つとともに病害虫の宿主になります。				更新予定なら、機械収穫で固くなった土をフライソイラ等で深耕する							

現状を理解しサトウキビで儲ける

重要 単収向上のポイント

植付・培土

- 採苗は必ず新植圃場から（株出栽培の圃場からは採苗しない）
- 芽子がきれいな（硬化していない、芽子が伸びていない、黒変していない、虫の侵入痕がない）ものを使う
- 密植（植付本数増加）により茎数を確保することで収量増加
- 平均培土は植付けから60日以上経ってから
- 平均培土時には必ず殺虫剤を土壤混和



管理

- ある程度大きくなるまでは雑草との勝負
- 梅雨明け後には必ず灌水
- 病害虫防除は先手を打ってこそ。害虫の出る時期を知ろう！



株出

- 収穫したらすぐに管理を始める（萌芽を見てからの管理は確実に単収を下げる）
- 管理方法は『株揃え・根切り・施肥・病害虫防除』が基本だが、『葉柄をどる』だけでもOK！
- 株揃え or 葉柄を除去したら必ず『土壤処理剤』を散布
- 畦間はなるべく早く中耕（間を置くと固くなる。ただし葉柄を巻き込みやすい）

※夏植え推進大会 小林 輝彦 氏 (JAおきなわ農業振興本部さとうきび振興部特命営農指導員) 講習会資料より抜粋

久米島製糖からのお知らせ

久米島製糖では製糖副産物のケーキ配布受付を行っております。久米島製糖より送付の申請書を記入のうえトラック協会（久米島実業運送）へ直接申込お願い致します。

☎ トラック協会（久米島事業運送）：985-7900 ☎ 久米島製糖：985-2045

☆みんなで植えよう増やそう さとうきび 目標収穫面積1200ha 単収7.0 t

さとうきび農家の皆さんへ

さとうきびが道路や歩道にはみ出していると交通の支障となります。また、歩行者や通行車両との事故にも繋がります。植付時に畠と歩道の間隔（目安：1m以上）を空けるとともにロープ等で縛るなどの対策をしっかり行うようお願い致します。

